

# ジェンダー平等が実現した地域の防災が 目指す社会像とそれを示す指標

内閣府(防災担当) 普及啓発・連携担当

2017年10月20日版

ジェンダーと防災に関する有識者懇談会

---

# 本懇談会において検討すべき範囲

## 検討事項1 災害時におけるジェンダー

性差によりどのような異なるニーズ、被害が生じるか。  
それを最小限にした社会像はどのようなものか。また、そのための  
取組の方向性はどのようなものがあるか。

## 検討事項2 事前防災におけるジェンダー

事前防災において、ジェンダー格差が解消されると、地域の防災  
力にどのような影響があるか。

# 検討事項1: 災害時におけるジェンダー

## Key Questions

- 災害時に、性差によりどのような異なるニーズ、被害が生じるか。それは、平時の課題とどのような関係にあるのか。
  - 避難時: 平時のジェンダー格差が起因して、苦悩が偏在するのか。
  - 避難生活、生活再建時: 回復のための支援、手段にジェンダー格差があることから、さらに格差が拡大するのか。
- それを最小限にするために、どのような方向で取組を進めるべきか。それによって、どのような社会像が目指されるか。

# 検討事項2: 事前防災におけるジェンダー

## Key Questions

- 事前防災においてジェンダー格差が解消されると、地域の防災力にどのような影響があるか
- ジェンダー格差を解消することが実現する社会像はどのようなものか
  - 防災も地域づくり・まちづくりのテーマとした総合性が生まれるか。
  - 地域のなかの多様性が高まるか。

	地域の防災力が向上・維持される	地域の防災力が低下する
ジェンダー平等である	成立する？ 目指すべき社会像 <先進国事例？> <日本の先進的な市町村例？>	成立しない？
ジェンダー平等ではない	成立しない？	現状の日本？

## 検討事項1:災害時の異なるニーズ、被害(1/3)

	目指すべき社会像	指標	取組の方向性	既存データ分類	
				男女	地域
直接被害、影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性差による災害時の被害の差が少ない</li> <li>・社会全体での災害時の被害が少ない</li> </ul>	死者（直接死、関連死）		×	都道府県
		行方不明者			
		負傷者・疾病者（精神の病も含む）			
		自殺者		○	都道府県
		住居を失った者		×	都道府県
		仕事への影響(収入減、解雇、離職、休職)		○	都道府県
		応急ニーズに対する雇用		×	県・市町村
		その他			
避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性差による災害時の被害の差が少ない。</li> <li>・災害時の状況・自らの役割から、自らできる限りよい行動を考え、実行することができる</li> </ul>	率先して積極的に避難する人		○	都道府県
		インターネット等の情報源へアクセスし、避難情報を収集、避難場所等を確認する			
		平日・昼間に発災の場合、どこに、どのような状況でいるか <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅で介護、育児等他者のケア</li> <li>・職場（他者のケアをする職場（病院、介護施設、保育園等）、接客をする職場、それ以外）</li> <li>・その他 避難が困難になる状況</li> </ul> 住宅地の場合、居住者がいない商業地区の場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に住む人々の状況についての理解を促進する。</li> <li>・様々な状況下での避難のやり方を提示、実行する。</li> </ul>		
		その他			

## 検討事項1: 災害時の異なるニーズ、被害(2/3)

	目指すべき社会像	指標	取組の方向性	既存データ分類	
				男女	地域
避難生活	・避難に関する情報を入手する機会が誰にでもある	避難所数、福祉避難所にいる避難者数、在宅避難者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に住む人々の状況を事前に把握する。</li> <li>・平時から、地域の行政・NPO等が「顔の見える関係」を築き、多様なニーズに応えることができるようにする。</li> </ul>	×	市町村
	・避難生活の負担や被害の差が少なく、避難生活を送ることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なニーズに対しての支援を要すると想定される人</li> <li>・妊産婦、授乳中</li> <li>・介護中（する、される）</li> <li>・単身高齢者</li> <li>・単身の若者</li> <li>・病気療養中 etc</li> </ul>		○	都道府県
	・誰もが避難生活の改善に関する活動に関わる機会がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身が避難している以外に、やらなければいけないことがある</li> <li>・職場での仕事</li> <li>・介護、育児</li> <li>・避難所運営の負担 etc</li> </ul>			
	・避難生活中のニーズが人によって多様であることが理解され、それに応じて被災者に寄り添った支援をする人がいる。	性犯罪、暴力の被害		×	都道府県
	・避難生活中に、共助により地域が助け合うことが理解され、実践されようとしている	避難所運営への参加			
	・避難生活を機会に地域に住む人、ネットワークが掘り起こされる	<ul style="list-style-type: none"> <li>プライバシーを確保し、尊重する対応（更衣室、授乳室、洗濯物干 等）</li> <li>その他</li> </ul>			

## 検討事項1: 災害時の異なるニーズ、被害(3/3)

	目指すべき社会像	指標	取組の方向性	既存データ分類	
				男女	地域
生活再建	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活再建に関する情報を入手する機会が誰にでもある</li> <li>誰もが負担や被害の差が少なく、又は縮小し、生活再建に取り組むことができる</li> <li>誰もが、地域の再建・復興に関する活動に関わることができる</li> <li>生活再建中のニーズが人によって多様であることが理解され、それに応じて被災者に寄り添った支援をする人がいる。</li> <li>生活再建中に、共助により地域が助け合うことが理解され、共助を行う機会・受ける機会が誰にでもある。</li> <li>日常が取り戻される</li> </ul>	仮設住宅、災害公営住宅への入居者	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に住む人々の状況を事前に把握する。</li> <li>経済的な生活再建が難しい者に対し、就労支援を行う。</li> <li>行政の異なる部門間の連携が取れている。</li> </ul>	○	都道府県
		多様なニーズに対しての支援を要すると想定される人 <ul style="list-style-type: none"> <li>一人親家庭</li> <li>単身高齢者</li> <li>単身の若者</li> <li>貧困者</li> <li>失業者 etc</li> </ul>			
		地域の再建・復興まちづくりへの参加			
		その他			
長期的な影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>復興を機会に、地域経済が成長する</li> </ul>	人口移動		○	市町村・一部町長字
		雇用		○	都道府県
		産業創出		○	市町村・一部町長字

## 検討事項2:事前防災への参加(1/2)

	目指すべき社会像	指標	取組の方向性	既存データ分類	
				男女	地域
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会・経済状況の変化に対応した自助・共助による防災を考え実行している。</li> <li>これによって社会全体を強くする</li> </ul>	【参考として】人口動態（人口減少、高齢者世帯、単身世帯）、ライフスタイル（就業状況の多様化）、貧困、地域の結びつき / 都市・田舎別 etc...			
自助	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のリスクが理解されている</li> <li>防災の知識を習得し、情報を入手する機会が誰にでもある</li> </ul>	防災対策の学習、事前に避難所を確認、防災教育・研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人々誰にでも、研修・訓練の機会を提供する。</li> </ul>	○	都道府県
		防災訓練への参加		○	
		耐震化や家具固定をしている		○	
		備蓄を行う			
		その他			
共助	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に共助により地域が助け合うことが理解され、実践されている。</li> <li>多様性を尊重して、連携・協力・寄り添いができる</li> <li>防災に関わる地域の様々な主体が、主体間の連携を取っている。</li> <li>誰もが様々な立場や切り口で地域の防災に関する活動に参加・参画する機会がある</li> </ul>	地域・親族内で他者をケアする立場になる	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の中での「隣近所」のつながりを活性化する。</li> </ul>	○	都道府県
		家族・親族以外で地域の人をケアし、寄り添った対応・支援をする		○	
		町内会、自主防災組織等に参加する	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会、自主防災組織等の運営・活動を、広く誰にでもオープンにする。</li> <li>ボランティア、NPO等に、どのような立場の人であっても参加できるようにする。</li> </ul>	一部○	都道府県
		地域のまとめ役、防災リーダーになる			
		地区防災計画の策定への参加			
		ボランティア活動に参加			
	NPOやサークルに参加			×	市町村
	その他				



## 検討事項2:事前防災への参加(2/2)

	目指すべき社会像	指標	取組の方向性	既存データ分類	
				男女	地域
公助	・社会の仕組みが、個人の個性や多様性があることを踏まえて作られている。	中央防災会議、地方防災会議		○	都道府県・市町村
		行政機関（国、地方公共団体）		○	都道府県
		消防団		○	市町村
		民生委員		○	都道府県・市町村
		「寄り添い」（支援）を生業とする人（看護師・理学療法士、介護施設職員など）			
		その他			

## 目指すべき社会像のまとめ：ジェンダー平等が実現された防災

### 目指すべき社会像（ジェンダー平等が実現された社会（防災）の姿）

- ジェンダー平等が実現された社会（防災）は、自助共助による「地域の防災力」が向上し、「事前防災」と「災害時被害の縮小」に寄与する

#### 事前防災

- 社会・経済状況の変化に対応した自助・共助による防災を考え実行している。
- これによって社会全体を強くする
- 地域リスクが理解されている。
- 防災の知識を習得し、情報を入手する機会が誰にでもある
- 個人の個性や多様性が理解されている
- 災害時に共助により地域が助け合うことが理解され、実践されている。
- 多様性を尊重して、連携・協力・寄り添いができる
- 防災に関わる地域の様々な主体が、主体間の連携を取っている。
- 誰もが様々な立場、切り口で地域の防災への活動に参加する機会がある
- 社会の仕組みが、個人の個性や多様性があることを踏まえて作られている

#### 被害の縮小

- 避難に関する情報を入手する機会が誰にでもある
- 性差による被害の差や避難生活の負担の差が少ない、縮小している
- 誰もが避難生活の改善に関する活動に関わる機会がある
- 避難生活中のニーズが人によって多様であることが理解され、それに応じて被災者に寄り添った支援をする人がいる。
- 避難生活中に、共助により地域が助け合うことが理解され、共助を行う機会・受ける機会が誰にでもある。
- 避難生活を機会に地域の絆が再確認される
- 生活再建に関する情報を入手する機会が誰にでもある
- 誰もが負担や被害の差が少なく、又は縮小し、生活再建に取り組むことができる
- 誰もが、地域の再建・復興に関する活動に関わることができる
- 生活再建中のニーズが人によって多様であることが理解され、それに応じて被災者に寄り添った支援をする人がいる。
- 生活再建中に、共助により地域が助け合うことが理解され、共助を行う機会・受ける機会が誰にでもある。
- 復興を機会に地域経済が成長する